

寄稿 会員のひろば

「私の藤樹先生との出会い」

清川 貞治

私と藤樹書院や藤樹神社の関係は、昭和五十九年青柳小教頭を拝命頂いた中で、新校舎建築準備と共に藤樹教育推進に努める事から始まりました。朽木の故、柳生正雄先生から自分も青柳小を振り出しに藤樹教育について勉強した事をご指導下さいました一言は、『清川君は毎



朝青柳小へ出勤するんだし、青柳から帰宅するんだから、むずかしいことは考えず、藤樹神社に向かつて「おはようございます。」「今日も一

日お守り下さいまして有難うございました。どうぞ明日もお守り下さい……。」と毎日唱えて、頭を下げるようにしなさい。』と……。立志祭

や大洲小学校との交流、「三尺の泉」の校舎前庭の生水、地元のPTAの方々の藤樹規、致良知の卒業記念品の印刷木版画刷り、



「知行合一」
「当下一念」

等の論語文の解釈、下がり藤の謂、地元ライオンズクラブの年間行事参加、大洲小・中・高校の上がり藤の謂、中江の水、……等、色々勉強させて頂きました。

物静かで、優しさを与えて下さいました地元の方々、新しい生き継ぐ道を貴賓室に保管しました。プレハブ校舎移転作業交えて三年間、収穫祭に上げた風船の旅が東宮御苑に落ち、金せん花、マリーゴールド、サルビアの種が皇后陛下の目にとまり、八木女管長よりお便りを頂き、全校喜び……忘れられない思い出のページでした。

あれから三十年余り、あつという間の経緯ですが、藤樹先生の偉大な陽明学を学び乍ら、玉林寺、書院等いつぱい良知の心の体得が青柳の里に存続していくよう共々祈るこの頃です。

藤樹少年像 (青柳小学校)



書院儒式祭典 (9月25日)



滋賀県高島市立 青柳小学校

安曇川と鴨川に挟まれたデルタ地帯にある校区は、農村地帯であるが扇骨業の地場産業も盛んである。しかし現在では県内外へ通勤している人々が多い。また、宅地開発が進み転入者も増加している。

わが国の陽明学の祖である中江藤樹先生の生誕、終焉の地でもあり、学校の周辺に「藤樹書院」をはじめ藤樹先生ゆかりの史跡や施設も多く、安曇川町では、この地域を「歴史・文化ゾーン」として生涯教育の町づくりの諸施策を実施してきた。

中江藤樹先生を生んだ環境の中にある本校は、藤樹先生の「良知に生きる」を基盤とした学徳と求道の精神を教育の中核に位置付け、徳知体の調和のとれた新しい時代を生き抜く人間性豊かな子どもの育成を目指して教育実践に取り組んでいる。

「私の藤樹先生との出会い」

高谷 美智子

今から二十九年前、大阪から越してきた頃に湖西線の車窓から見えた銅像、それが私と藤樹先生との出会いでした。

気になりながらも十年ほど過ぎた頃、安曇川中学校に勤めることになりました。当時、藤樹先生の映画を撮影されていて校内でも上映されました。その時、あの銅像が藤樹先生だと知ったのです。

そして、短い生涯にこんなに多くの人達に人生の師と尊敬されて、その教えが今まで受け継がれていることに驚きました。

道徳的なことは敬遠されがちなものですが、藤樹先生は自身の人柄や生きていく態度によって、相手に様々な気づきを与えていることに感動しました。

今でも藤樹先生に学ぼうと市内の小学校で立志祭が行われています。幼いうちから藤樹学を学ぶことのできる高島の子ども達は、今は理解しなくても社会に出てから素晴らしいことに気づき、生きる支えにするかもしれません。

微力ですが私も教材委員会で紙芝居の制作に加わらせてもらい、子ども達の心の成長に協力できればと思っています。

「五事を正す」この教えに出会えたことは、とても幸運でした。嫌なことがあった時、相手を責める気持ちになった時、「五事を正す」を思い浮かべて考えてみます。

反省するところが見えてきます。奥の深い藤樹先生の教えですが、常に心がけていこうと思います。